

委員会審査

3月定例会で委員会に付託された議案等について審査を行いました。

総務文教委員会

委員長 梅 木 良 照

■「高齢者交通安全アドバイザー事業」について

問 事業内容について

答 この事業は、2人1組のアドバイザーを、市内の約7,500世帯の高齢者宅へ派遣し、2年程度をかけて、交通指導や交通安全意識の啓発等を行うものであり、2人のアドバイザーのうち1人を臨時職員として雇用し、もう1人は正規職員を配置する予定である。

近年大洲警察署管内では交通事故が多発しており、その中でも高齢者の比率が高く、何らかの対応策を検討していた中、同じような事業を先行して実施されている西条市では、昨年1年間で交通事故による死者が1名という大きな成果

を上げているため、当市においても、この取り組みによる効果が見込まれる。

■学校給食の食材に関して地元産食材の利用状況について

問

答 一部の原材料を除き、中国で加工された食材の使用を取り止め、ほとんどの食材を国産品とすることに決定した。現在、大洲学校給食センターでは、1

元産に



学校給食の食材をできるだけ地元産に

日約4千食分を調理しており、これら全てに地元産の食材を使用することは数量的・季節的なことから困難であるが、今後でもできる限り地元産の食材を使用していきたい。

企画財政委員会

委員長 古 野 青 弘

■市税の収入見通しについて

説明

固定資産税で1・69%の増収を見込んでいるが、長年にわたる地域経済の低迷や最近の原油価格の高騰などにより市民税や軽自動車税、たばこ税でそれ以上の減収を見込み、前年度対比5・62%減の43億8,884万6,000円を計上している。

問 たばこ税の減収要因と「タスポ」カードについて

答 たばこ税の税収の状況は、平成18年にたばこ

税の引き上げがあり、18年度の売上げ本数については6%減少したものの、税収については大きな減額とはなっていない。19年度は前年度に比べ、売上げ本数が



約4%程度落ちる見込みである。全国のたばこ自動販売機は今年の3月から順次成人識別たばこ自動販売機に変わり、「タスポ」という成人識別ICカードにより本人認証ができないとたばこが購入できなくなり、影響も考えられるが、一番の要因は社会的な禁煙運動や分煙運動の徹底による影響が大きいのではないかと考えられる。

■まちづくり交付金事業について

問 おはなはん通り及び周辺地区町並み景観保全対策費補助金について

答 この事業は、大洲市の歴史性を色濃く残している肱南地区の街並みの景観を保全するため、平成11年に補助金の交付規程を作り、現在まで毎年1棟から3棟を整備してきているもので、対象となる指定地域

は、まちの駅「あさもや」からおはなはん通り、志保町通り、大洲神社の下の通りまでの一画、約1ヘクタールである。伝統的な工法で改修する場合には、補助率5分の4、上限1,000万円まで交付できるようになっており、今回は、おはなはん通りのほぼ中央にある茶室風の建物の改修を予定している。この建物は茶室建築の大手や建物細部は京都の千家十職によるものではないかと思われるほど臥龍山荘と非常によく似たつくりとなっており、大変貴重な建物であるため、今回この事業を取り入れたい。



歴史的建造物の多いおはなはん通り